

性原病
インフル
高鳥

抗体を効率作製

大阪府立大 ダチョウウ卵から採取

大阪府立大学の塚本康浩・准教授らは、人から人へと流行する新型インフルエンザへの変異が懸念される高病原性鳥インフルエンザのウイルスに対する抗体を、ダチョウ



大阪府立大が鳥インフルエンザの抗体を大量作製するときに使ったダチョウ

を使って大量に効率よく作製する技術を開発した。作製した抗体をマスクに付ければ、新型インフルエンザの発生時に人の間での感染拡大を抑えられる可能性があるという。

企業と組んでマスクなどの製品化を目指す。開発した製造法は、まず鳥インフルエンザ

科学

CROSSEED 株式会社

ウイルスの抗原の一部を採取してダチョウウに注射。するとダチョウウの血中でウイルスへの抗体が作られる。ダチョウウは卵を産むとき、卵黄中に高濃度で抗体を移行させるため、効率よく抗体が取

り出せる仕組みだ。一羽のダチョウウから、半年で二百〜四百匹の抗体を作れた。ウサギ一匹にウイルスを注射して作る場合と比べて四百〜八百倍の量に当たり、製造コストや手間などが大幅に削減できるという。

この抗体を実際に鳥インフルエンザウイルスと混ぜて鶏卵や培養細胞に与えたところ、抗体五割（約は百万分の一）を混ぜるだけで、ウイルスが感染しなくなることが確認できた。実験はインドネシアで採取されたH

5N1型の高病原性鳥インフルエンザウイルスを用い、インドネシア国内の施設で実施した。研究は科学技術振興機構の支援を受けたもので、十月二十一日から札幌市で開催される日本ウイルス学会で発表する。